

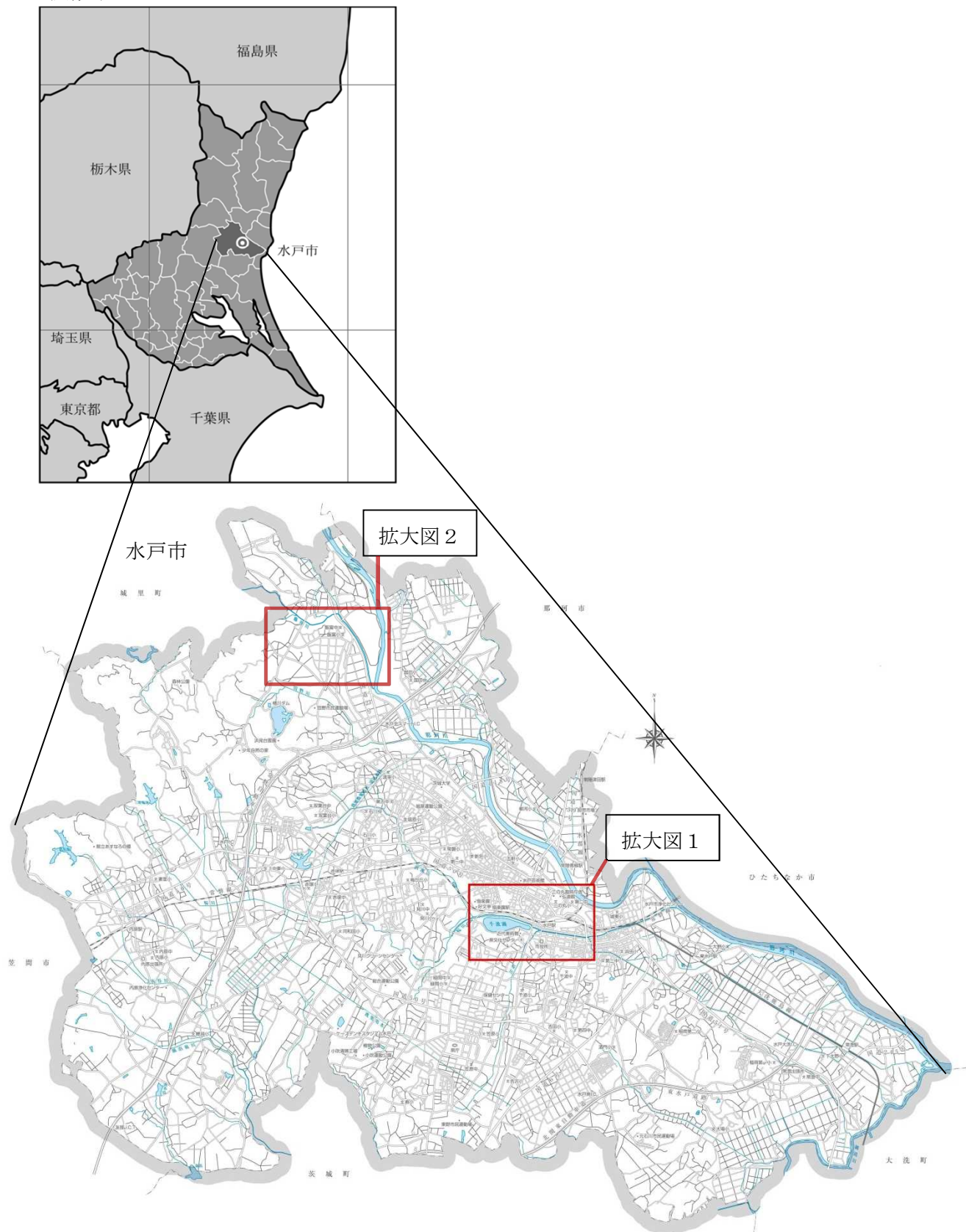
① 申請者	◎水戸市, 足利市, 備前市, 日田市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
近世日本の教育遺産群 ―学ぶ心・礼節の本源―			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示した。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれている。</p>			
			
旧弘道館 (茨城県水戸市)		足利学校跡 (栃木県足利市)	
			
旧閑谷学校 (岡山県備前市)		咸宜園跡 (大分県日田市)	
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	水戸市教育委員会事務局文化課世界遺産推進室世界遺産係 大森 明彦		
電 話	(029) 306-8132	FAX	(029) 306-8693
E-mail	isan@city.mito.lg.jp		
住 所	茨城県水戸市笠原町 978-5		

市町村の位置図（全国地図）



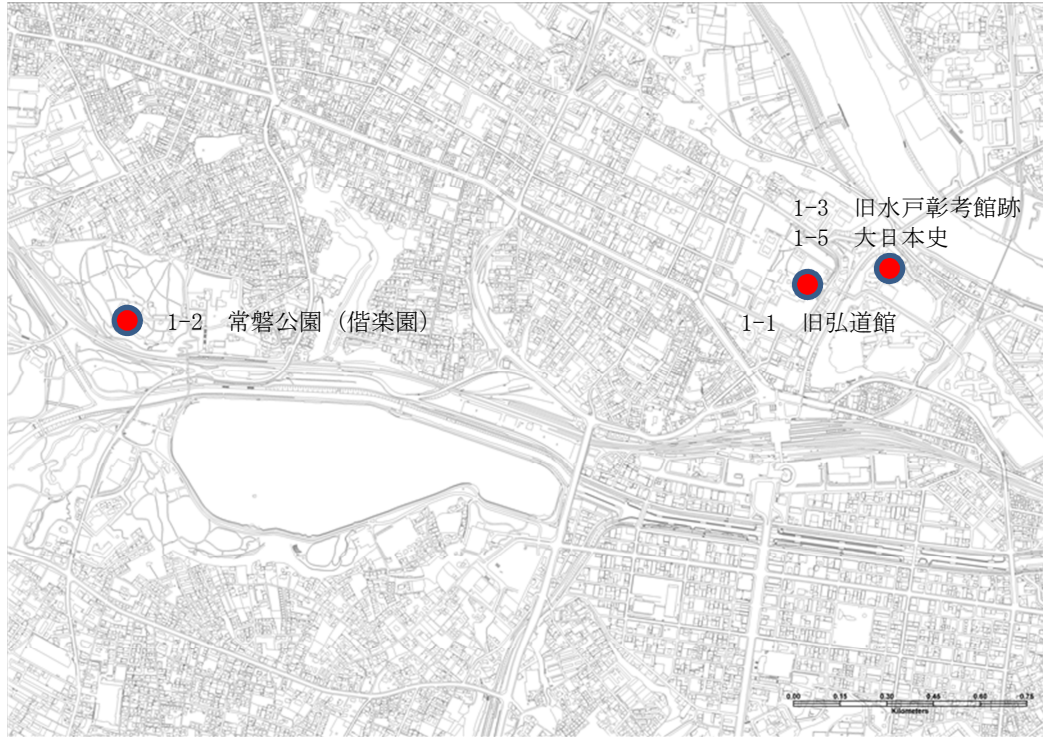
市町村の位置図（水戸市）

茨城県



構成文化財の位置図（水戸市）

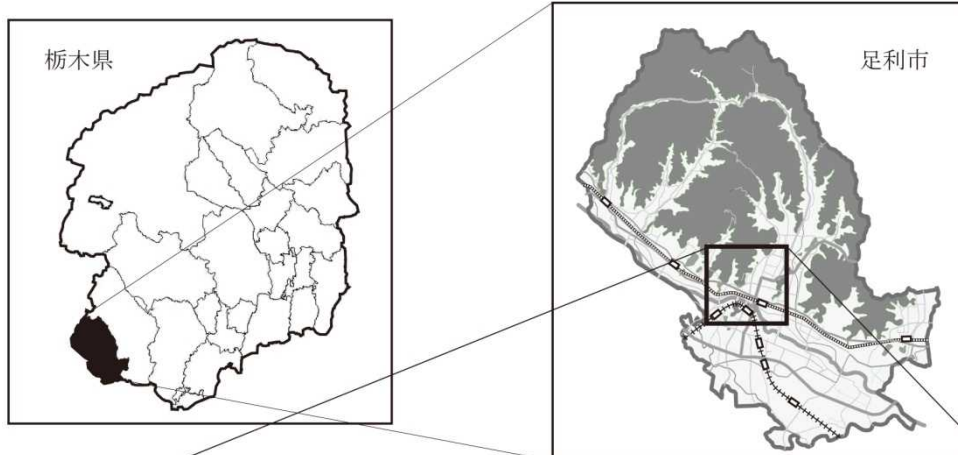
拡大図 1



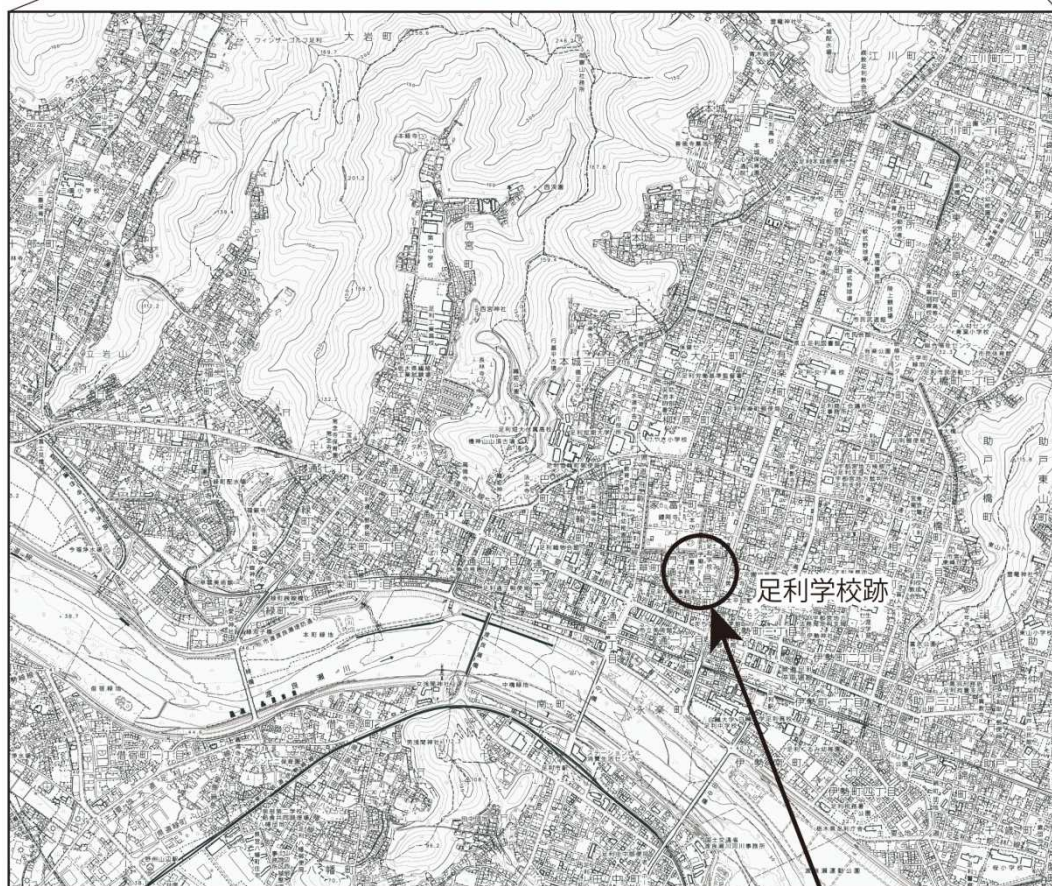
拡大図 2



市町村の位置図（足利市）

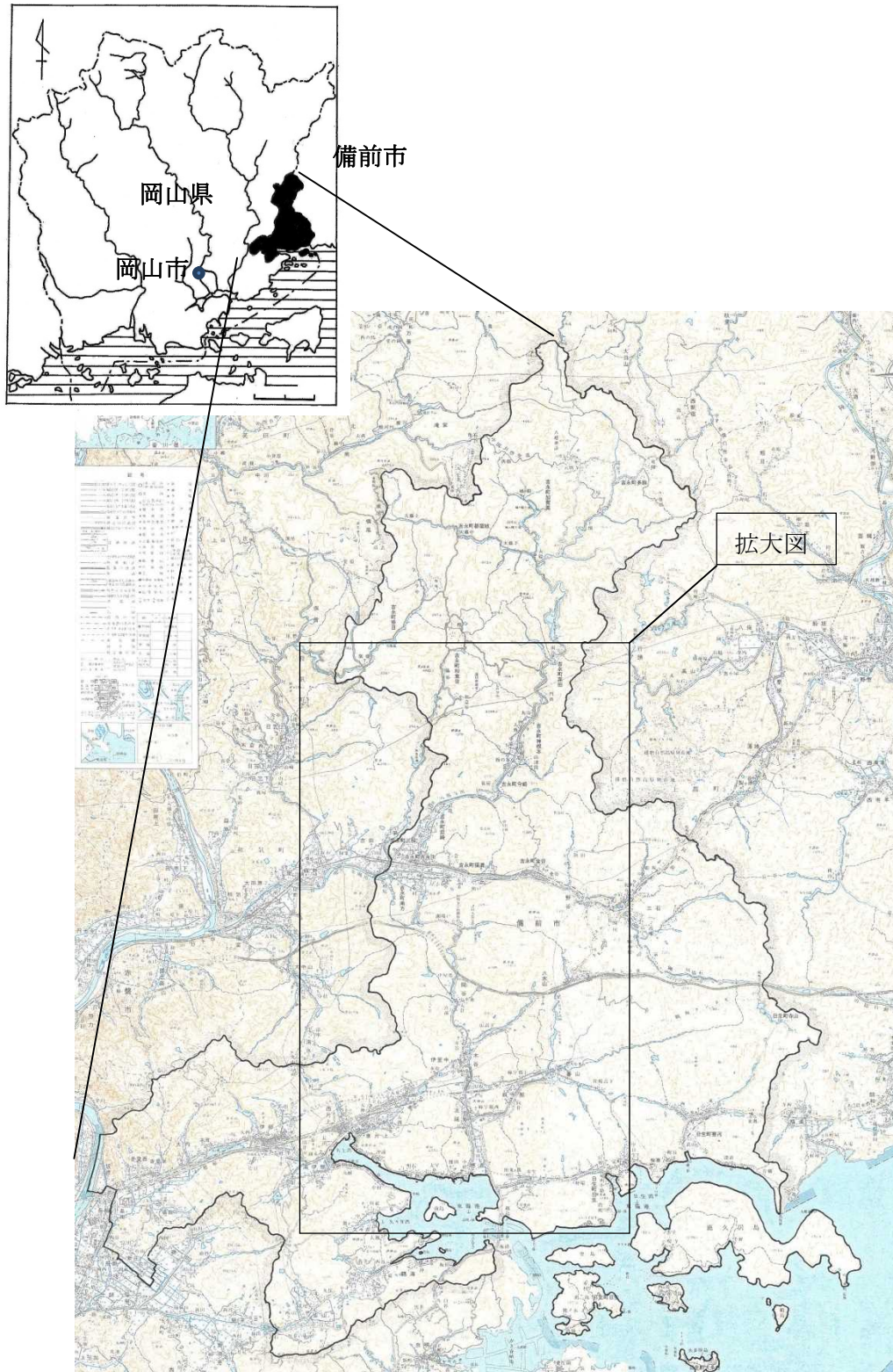


構成文化財の位置図（足利市）



- 2－1 足利学校跡
(聖廟および附属建物を含む)
- 2－2 国宝漢籍
『礼記正義』『尚書正義』
『文選』『周易注疏』
- 2－3 釋奠

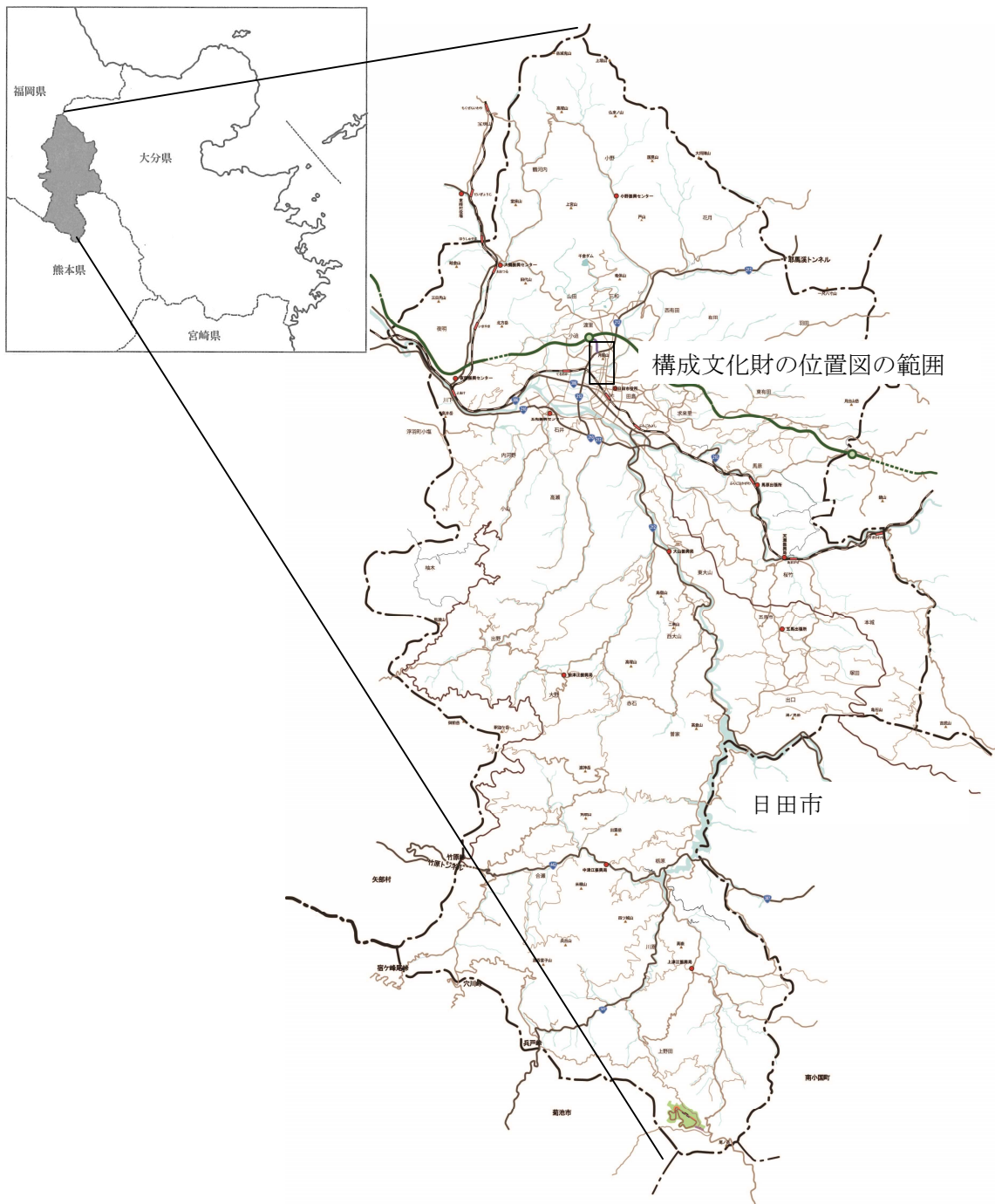
市町村の位置図（備前市）



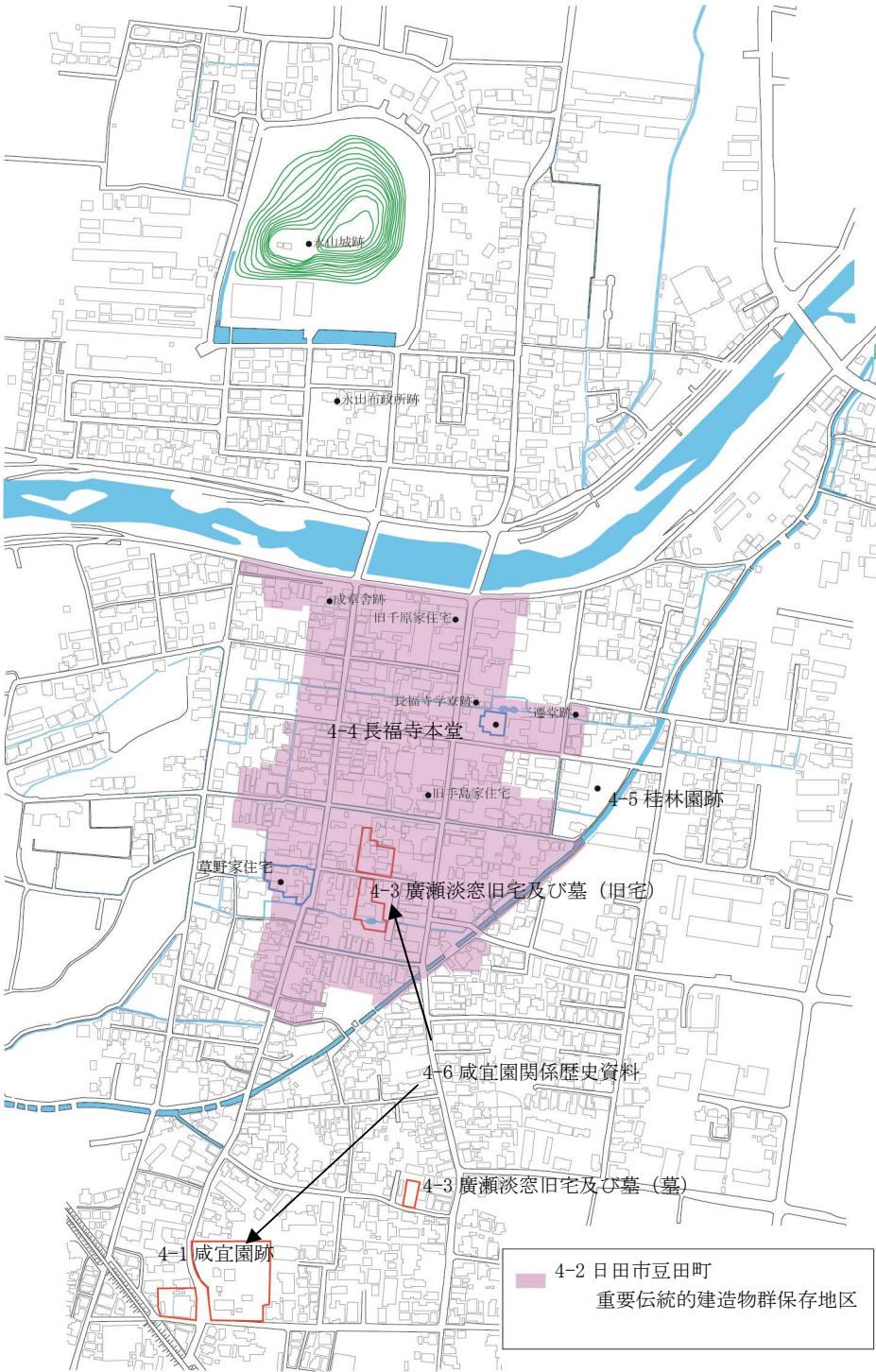
構成文化財の位置図（備前市）



市町村の位置図（日田市）



構成文化財の位置図 拡大図（日田市）



ストーリー

1 外国人から見た近世日本の姿

近世日本を訪れた外国人は、紀行文に日本人の様子を書き記しています。

イギリス領時代のカナダ出身の冒険家、ロナルド・マクドナルドは「日本回想記」の中で、「日本人のすべての人―最上層から最下層まであらゆる階級の男、女、子供―は、紙と筆と墨を携帯しているか、肌身離さずもっている。すべての人が読み書きの教育をうけている。また、下級階級の人びとさえも書く習慣があり、手紙による意思伝達は、わが国におけるよりも広く行われている。」と述べています。

また、イタリア人宣教師、アレシヤンドロ・ヴァリニャーノは、「日本巡察記」で「人々はいずれも色白く、きわめて礼儀正しい。一般庶民や労働者でもその社会では驚歎すべき礼節をもって上品に育てられ、あたかも宮廷の使用人のように見受けられる。この点においては、東洋の他の諸民族のみならず、我等ヨーロッパ人よりも優れている。」と記録しています。

これらの記述からは、当時の日本人が、他の諸外国と比較して、身分や性別を越えて高い読み書き能力を持ち、礼儀正しさを身につけていた様子が分かります。

こうした教育の伝統が継承され、明治維新後の日本の近代化が進められたことをロナルド・ドーアなどの欧米の研究者は、「近世日本の教育こそが日本近代化の知的準備をした。」として高く評価しています。

このようなエピソードからも分かるように、近世の日本では高い教育を受けた層が社会全体に広がっていました。外国人にとっては、一見しただけで相手の身分を判断することは困難なほどでした。

2 近世日本を支えた学校の普及

近世の日本人が高い教養を身につける上で大きく貢献したのが、全国各地に建てられた学校です。

その学校の始まりと言えるのが、イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルが「日本国中最も大にして最も有名な坂東の大学」と称した足利学校です。足利学校の創建については諸説ありますが、15世紀、上杉憲実^{のりさね}は学規を定め、現在国宝となっている漢籍^{かんせき}を寄進するなどして足利学校を再興し、戦乱の時代においても全国から多くの学徒が集まりました。その教えは、儒学を中心としながらも、易学・兵学・医学など多岐にわたり、日本最古の総合大学と呼ぶにふさわしいものでした。

江戸時代になると、足利学校は、貴重な書籍の宝庫として、幕府から保護されました。足利学校の自由で開放的な学びと自学自習の精神は、近世の学校の原点と言えます。

一方、足利学校以外にも積極的に教育に取り組んだ藩主たちが各地に学校を設立していきました。

岡山藩主の池田光政は庶民の教育も不可欠と考え、閑谷学校^{しずたにがっこう}を創りました。光政は熊沢蕃山^{くまざわばんざん}から学んだ儒教思想にのっとり、緑の生い茂る閑かな山村に教育の理想を体現しました。現在国宝となっている講堂などの建物や石塀などの施設は、火災や雨から守り長持ちさせるための工夫がされており、学校存続への強い願いが表れています。経済基盤としては井田村下井等の学田^{いたむらしもい}を持たせて学校の永続を図りました。日本最古の庶民教育学校とも呼べる閑谷学校では、広く門戸を開き、他領からも多くの生徒が集まりました。

また、18世紀以降多数の藩校が建設されますが、その配置計画は閑谷学校のように日本的なもの



が大多数となっていきます。したがって閑谷学校は日本の学校建築の出発点に位置し、現存最古の代表例といえます。

江戸時代後期には、個人が経営する私塾も日本全国に数多く生まれてきました。

幕府の代官所が置かれた豊後日田では、町人を中心とした自由な風土が生まれ、^{ひろせたんそう}廣瀬淡窓が^{かんぎえん}咸宜園という私塾を創設しました。咸宜園では、毎月成績評価を行う「^{げったんひょう}月旦評」などの特色ある教育が全国的な評判となり、各地の私塾に影響を与えるとともに、全国60か国以上から5,000人を超える門下生を集め、日本最大規模の私塾となりました。咸宜園に隣接する豆田町には、淡窓の日記や入門簿・会計録などの史料が伝わる淡窓旧宅や長福寺などの町並みが残り、その周辺では、咸宜園である前身の^{けいりんえんあと}桂林園跡や塾主の墓を見ることができます。

また、幕末に頻繁に起こった外国船の接触によって、時代を切り開く力を持った有能な人材の育成が必要となり、実力主義や幅広い科目を教える学校が広がっていきました。

弘道館は、水戸藩主の徳川^{なりあき}斉昭が教育によって人心を安定させ、国を興すために設立した日本最大規模の藩校です。水戸藩には、歴史書『大日本史』を編集した^{しやうこうかん}彰考館があり、昔から学問・教育が盛んでした。弘道館は、歴史だけでなく、医学、兵学、武芸など実用的な科目も備えた総合大学ともいえるもので、その教育方針や施設、運営方法等は松代藩校文武学校や庄内藩校致道館等の他藩の藩校にも大きな影響を与えました。一方、偕楽園は勉学の休息の場として位置づけられ、弘道館と対をなしていました。偕楽園の梅は、非常食になる実用的側面と、学問を好む「好文」という異名を持つことから斉昭が植樹を奨励したもので、水戸藩の学問興隆の象徴となっています。郊外にも個性重視の教育を行った日新塾など、特徴的な私塾が建てられ、多彩な門人を輩出しました。

こうした日本の学校は、中央政府である幕府ではなく、民間や藩が主導して発展していったことに特徴があり、幅広い教育を行うことができました。

3 現代に継承される近世日本の教育

これまで紹介してきた、近世日本を代表する教育遺産群では、現在でも論語の素読やいろはかるたなど、当時の教育内容を同じように体験することができます。これらの学校は、過去の遺産ではなく、現在でも生きた学びの場であり続けています。

近世学校の原点としての威厳が漂う足利学校では、国内に現存する最古の^{せいびやう}聖廟が残り、11月には孔子を祀る^{せきてん}釋奠という祭礼が行われます。足利学校と同じく孔子を祀る^{せきさい}釈菜という祭礼が受け継がれている“学びの原郷”閑谷学校では、日曜日になると、論語の^{ろうしやう}朗誦が静かな山間に響き渡り、往時の姿を偲ばせます。



咸宜園と豆田の町並みを歩けば、江戸時代の「学園都市」や町人文化の空気に触れられますし、弘道館や偕楽園を訪れると、ほんのり甘い梅の香りとともに、水戸藩の学問の伝統を感じられるでしょう。

近世の日本ではこうした学校とその周辺を取り巻く環境を舞台に営まれてきた教育の成果によって、世界でも類を見ないほどの高い教育水準を実現し、それが明治維新以降のいち早い近代化の達成につながりました。一方、こうした教育は、礼節を重んじるという日本人の国民性を形づくってきました。現在、日本人のマナーの良さは世界中で高く評価されています。まさに近世日本の教育は、現代にも継承されている「世界に誇る日本の教育」だったと言えるでしょう。

ストーリーの構成文化財一覧表（水戸市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1-1	きゅうこうどうかん 旧弘道館	国特別史跡	総合大学ともいえる藩校の代表例。医学館では種痘が実施され、徳川斉昭は実子 2 人に種痘を行うなど、領内に普及を図った。現在でも館内では、論語教室が行われている。	茨城県水戸市
1-2	と きわこうえん 常磐公園 かいらくえん (偕楽園)	国史跡及び名勝	弘道館と一対の教育施設として造られた庭園。園内には、学問興隆の象徴として、「好文木」として知られる梅が植樹された。	茨城県水戸市
1-3	きゅうみとしょうこうかんあと 旧水戸彰考館跡	未指定	徳川光圀により開設された「大日本史」の編纂局。光圀に招かれた明の儒学者朱舜水是、水戸藩の修史事業に大きな影響を与えた。	茨城県水戸市
1-4	にっしんじゅくあと 日新塾跡	市史跡	弘道館と同時期に水戸藩郊外で運営された私塾。水戸藩士を含む多彩な門人を輩出した。多様な教育科目を備え、医学も盛んであった。	茨城県水戸市
1-5	だいにほんし 大日本史	未指定	水戸徳川家第 2 代藩主徳川光圀によって開始され、水戸藩の事業として継続し、明治時代に完成した歴史書。	茨城県水戸市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

ストーリーの構成文化財一覧表（足利市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
2-1	足利学校跡 (聖廟および附属建物を 含む)	国史跡	現存する日本最古の学校の遺跡。我が 国儒学の学灯を伝える学問の府とし て全国より学徒が集った。自由で開放 的な学びと自学自習の精神は、近世の 学校の原点となった。なお、聖廟は国 内現存最古のものである。	栃木県足利市
2-2	国宝漢籍 『礼記正義』『尚書正義』 『文選』『周易注疏』	国宝（書跡）	漢籍を中心とした貴重な書籍の宝庫 である足利学校は、近世期も全国から 学者や著名人が訪れ、蔵書の閲覧や研 究が行われた知のネットワークのセ ンターであった。	栃木県足利市
2-3	釋奠	市民俗	聖廟では、孔子のまつりである釋奠が 営まれる。伝統的な祭器を用い、現在 は毎年11月23日に行われている。	栃木県足利市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、
県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明になら
ないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にま
たがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

ストーリーの構成文化財一覧表（備前市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
3-1	きゅうしずたにがっこう 旧 閑谷学校	国特別史跡 国宝・国重文	岡山藩主池田光政が造った世界最古の庶民のための公立学校で、江戸時代前期の建物と配置がほぼそのままの形で残る稀有な文化遺産。	岡山県備前市
3-2	せきさい 釈菜	未指定	江戸時代の学校には、儒学の祖孔子を祀る建物が造られることが多く、ここでは孔子の徳を称える釈菜の儀式が行われた。閑谷学校では、貞享 3 年 (1686) から始まり、現在も行われている。	岡山県備前市
3-3	いたむらのぶはら 備前国和気郡井田村延原家文書	未指定	検地帳などからは当時の学校領の様子が、入学願書や教科書等からは江戸時代の子どもたちが学校に通う様子がわかる。	岡山県備前市 (備前市歴史民俗資料館)
3-4	くまざわばんざん 熊沢蕃山宅跡	市史跡	池田光政は学校創立のきっかけとなる儒教思想を儒学者熊沢蕃山から学んだ。蕃山隠居の地が学校から程近いところに残る。	岡山県備前市
3-5	せいでん 井田跡	市史跡	池田光政が中国周時代の土地制度である井田制を再現させた新田。一部は学田となり、閑谷学校の経営をささえた。	岡山県備前市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

ストーリーの構成文化財一覧表（日田市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
4-1	かんぎえん 咸宜園跡	国史跡	廣瀬淡窓が創設した近世日本最大規模の私塾跡。	大分県日田市
4-2	まめた 日田市豆田町 重要伝統的建造物群 保存地区	国重伝建	私塾咸宜園と共生した町並みが残る。	大分県日田市
4-3	廣瀬淡窓旧宅及び墓	国史跡	廣瀬淡窓の人間形成に大きな影響を与えた旧宅と咸宜園塾主らの墓が現存する。	大分県日田市
4-4	ちょうふくじほんどう 長福寺本堂	国重文	淡窓が最初に塾を開いた寺院の本堂が現存する。当時、出身僧侶が京都の高倉学寮の講師となるなど、日田における学問の中心であった。幼少時の淡窓はこの寺の僧侶に学び、その人間形成に影響を受けている。	大分県日田市
4-5	けいりんえん 桂林園跡	未指定	咸宜園の前身である私塾跡。それまで借家して講義を行っていた淡窓が初めて自らの塾舎を構えた場所で、塾生を励ます漢詩として全国的に著名な「休道の詩」（桂林荘雜詠示諸生）が詠まれた。	大分県日田市
4-6	咸宜園関係歴史資料	未指定	私塾咸宜園の「入門簿」や「会計録」、和漢籍など、塾の実態を明らかにする資料が残る。	大分県日田市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧（水戸市）

1-1 旧弘道館



1-4 日新塾跡



1-2 常磐公園（偕楽園）



1-5 大日本史



1-3 旧水戸彰考館跡



構成文化財の写真一覧（足利市）

2-1 足利学校跡（聖廟および附属建物を 含む）



2-2 国宝漢籍

『礼記正義』『尚書正義』『文選』『周易注疏』



2-3 釋奠



構成文化財の写真一覧 (備前市)

3-1 旧閑谷学校



3-4 熊沢蕃山宅跡



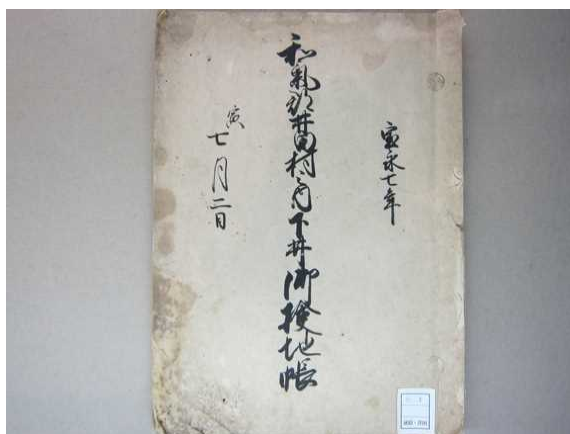
3-2 釈菜



3-5 井田跡



3-3 備前国和気郡井田村延原家文書



構成文化財の写真一覧（日田市）

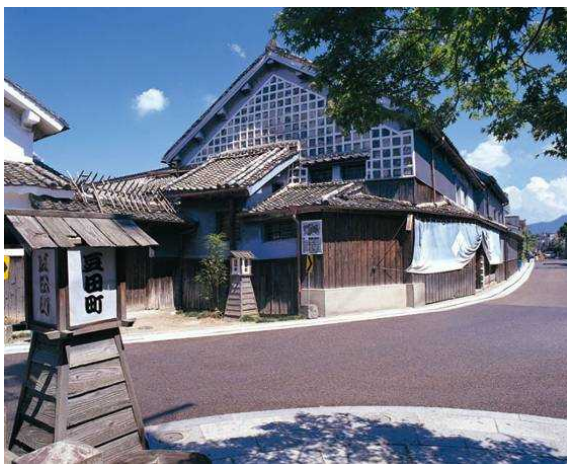
4-1 咸宜園跡（秋風庵）



4-3 廣瀬淡窓旧宅及び墓（墓）



4-2 日田市豆田町重要伝統的建造物群保存地区



4-4 長福寺本堂



4-3 廣瀬淡窓旧宅及び墓（旧宅）



4-5 桂林園跡（現・桂林荘公園）



4-6 咸宜園關係歷史資料

